

## 山崎製パン株式会社の環境の取組みから学ぶ「安全衛生・品質保持とプラスチック使用量削減の両立」とは

2024年12月3日、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会（以下、プラ推進協）会員企業の若手メンバーで構成されている「プラっと探検隊」は、環境配慮に力を入れる企業のひとつ、山崎製パン株式会社（以下、山崎製パン）を訪問しました。今回は、様々な視点で同社の環境配慮への取組みを学ぶことができた、初めての企業訪問の様子をレポートします。



### 容器包装のプラスチック使用量を

### 2004年度比16%（約3,000トン）削減

初めての企業訪問先として、山崎製パンの本社を訪れたプラっと探検隊。当日は、サントリーホールディングス(株)、大日本印刷(株)、TOPPAN(株)、日清食品ホールディングス、マルハニチロ(株)、雪印メグミルク(株)、ライオン(株)（以上、五十音順）の12名の隊員が参加しました。



まずは、総務部環境対策課次長 杉山様から、同社の環境の取組みについて説明をしていただきました。

創業76年の山崎製パンは、日本全国28工場と海外拠点を持つ大手製パンメーカー。食パンから菓子パン、和洋菓子まで幅広く手がけ、年間売上高1兆円超、年間4,000アイテム以上の新製品を開発しています。「良品廉価」「顧客本位」という企業理念の下、生産から物流、販売までを自社で担い、さらに開発途上国支援や緊急食糧支援といったさまざまな社会貢献活動も手がけてきました。

そしてこうした社会活動の一環として、同社が現在注力されているのが「環境への取組み」です。

## 社会貢献活動

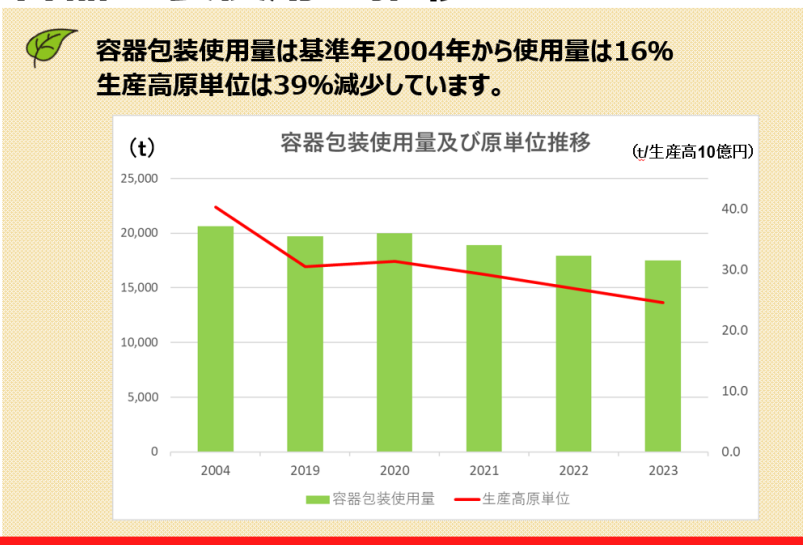


<p>創業時から今も続く想い</p> <p>企業経営を通じて、 <b>社会の進展 と 文化の向上</b> に寄与する。</p>	<p><b>食品科学研究助成</b></p>  <p>飯島藤十郎記念食品科学振興財団 学術講演会の様子</p>	<p><b>開発途上国支援</b></p>  <p>開発途上国の人々の自立と発展のため、 現地ニーズに即した支援を行う。</p>
<p><b>緊急食糧支援</b></p>  <p>大規模災害時の食糧支援は、食品企業 としての責務であると考えています。</p>	<p><b>環境への取組み</b></p>  <p>食品ロス削減・環境配慮製品 地球環境保全への取組みなど</p>	<p><b>スポーツ振興支援</b></p> <p>健康増進に繋がるスポーツの振興を支援。 国内最高峰の陸上競技大会に協賛。</p>  <p>▲全日本実業団対抗駅伝競走大会 (通称、ニューイヤーマラソン)</p>

なかでも「プラスチック削減」「プラスチックリサイクル」「食品ロス削減」といった3つの軸を設けて、成果を出されています。

まず「プラスチック削減」では、約20年前と比較して容器包装の年間使用量を16%削減。一斤食パンの袋の薄肉化・高さ低減による年間330トン削減、菓子パンの容器包装重量10%削減による年間約700トン削減など、さまざまな工夫で使用量の大幅削減を実現しています。製品の安全衛生や品質保持といった容器包装の機能はそのままに、環境負荷を減らすための工夫をこらしているのです。

## 容器包装使用量推移



「プラスチックリサイクル」では、輸送用プラスチック容器（番重）を回収・再生し、2023年には約27万枚を再利用。廃棄包材は結束バンドとして再生するなど、企業全体でリサイクルループを確立しています。

## プラスチックリサイクル



パンの納品に使用する番重（納品容器）は、自社で回収し、容器メーカーで新しい番重に生まれ変わります。

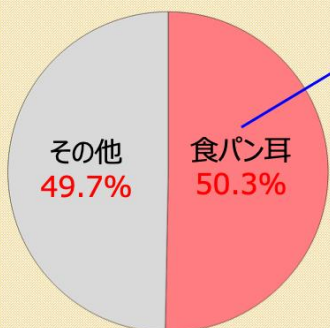


「食品ロス軽減」の取り組みでは、食品廃棄物発生量全体の約半分を占める食パン耳を再加工し、『ちょいパラスク』といった菓子製品や業務用パン粉、家畜の飼料などに転用。こちらもヤマザキのグループ内での食品リサイクルループを形成しているそう。そのほか、規格外農産物を加工して商品に活用したり、容器包装の改善により消費期限を延ばすことで廃棄ロスを防いだりするほか、フードバンク活動など、フードロス削減のためのさまざまな取り組みを行っています。

## 食品ロス削減の取り組み



2023年度食品廃棄物発生量



## リサイクルループの構築



工場から排出されたパン耳を飼料に加工し、その飼料を食べて育った鶏や豚からとれる卵や肉を製品や食堂で利用しています。



## 環境配慮の取組みを企業で行うための

### プラッと探検隊 Q&A

杉山様のレクチャーによって、山崎製パンの広範かつ積極的な環境活動について学んだプラッと探検隊のメンバーたち。その後、メンバーからより具体的な質問が投げかけられました。

まず、テーマに挙げたのが、「プラスチック製容器包装の環境配慮・資源循環について」です。そのやり取りの一部をご紹介します。



#### トークテーマ1：プラスチック製容器包装

##### の環境配慮・資源循環について

Q1. プラスチック使用量削減の成果と課題について教えてください。

A. 2004年比で生産高原単位 39%の削減を達成しています。安全衛生・品質保持との両立が課題ですが、サプライチェーンと協力しながら容器包材の薄肉化や材質変更を進めています。包材変更時には製造から流通まで何度もテストを重ね、品質確保に努めています。

Q2. プラスチック削減といった環境や社会問題に配慮した製品について、消費者からの反応はいかがでしたか？

A. 例えば食パンのクロージャーであれば、以前から「そもそもクロージャーは必要なのか？」という消費者の声がありました。実際に一部製品で廃止しても問合せなどは来ていないため、将来的にはほかの製品での廃止も視野に入れていきます。



## トークテーマ2：物流における環境配慮と効率化

Q3. 2023年3月まで物流における電気トラック（EV）の実証実験をされていましたが、その成果と課題について教えてください。

- A. 実証実験の結果、2つの課題があることがわかりました。ひとつはトラックの購入コストが高いこと、そしてもうひとつが一回の充電で走れる距離が短いことでした。しかし、今後も導入に向けての検討・調整を進めています。



Q4. 車載端末の搭載によって、ドライバーの意識に何か変化はありましたか？

- A. 前述の車載端末では、急発信や急ブレーキといったドライバーの運転データを蓄積・分析できます。そのため、帰着後にデータに基づいて個別指導するなど、ドライバーのエコドライブ意識向上に努めています。また、全国一元でリアルタイムに運行状況が確認可能なので、自然災害時にも情報を受発信して安全運行を実現しています。

## トークテーマ3：食品業界の環境対応と今後の展望

Q5. 環境配慮施策の推進における課題解決方法を教えてください。

- A. 包材削減による「原材料のコスト削減」を第一のメリットとして掲げ、「環境配慮」を二次的なメリットとすることで、関連部署の理解を得やすくしています。また、サプライチェーン全体での連携を重視しています。環境活動の消費者へのPRは今後の課題として、HPやレポートでの情報発信を強化していく予定です。



## トークテーマ4：その他の環境関連の

### 具体的取り組みについて

Q6. 廃棄プラスチックのリサイクルは、具体的にはどのように行われているのでしょうか？

- A. 生産終了品などに使われている品質の良い廃プラスチックは、そのままマテリアルリサイクルに回しています。一方、品質が悪い場合は、産業廃棄物として処理することもあります。近年では、廃プラスチックの固形燃料化の取り組みにも着手していて、コストとCO<sub>2</sub>の削減につながっています。



Q7. 消費期限が限られた製品も多いなか、フードバンクへの寄付活動はどのように行っていますか？

- A. 当日または翌日に引き渡し可能など、さまざまな条件をクリアしたフードバンク団体のみと締結・協力することで、寄付活動を進めています。

## 安全性と環境を守っていく企業としての意識を高めていく

活発な質疑応答を終え、プラっと探検隊のメンバーからは次のような感想が上がりました。

- ▶ 「商品数が多いと環境配慮も難しいと考えていたが、小さな取組みがボリュームある削減につながるものが印象的だった」
- ▶ 「同じ食品企業として、製品の安全安心の担保とプラスチック使用量削減の両立に苦労していることに共感しました。その上で、実用的なプラスチックリサイクルに取り組んでいるのが素晴らしいと感じた」
- ▶ 「プラスチック削減だけでなく、フードロスといったさまざまなサステナビリティの取組みについて今後も情報交換できればありがたいです。」

今回の訪問によって、企業としてプラスチックや食品ロス削減に取り組む上での推進方法や課題について、より深く学ぶことができたプラっと探検隊。消費者の反応などもうかがうことで、生活・消費者目線での情報発信や「自分ごと化」の重要性を改めて認識することができました。プラっと探検隊では今後も数多くの企業と連携しながら、環境への意識を高める活動を推進していきます。